釧路市教育委員会　令和５年第２１回１１月定例会会議録

１　日時：令和５年１１月２８日（火）１３時３０分から１５時００分まで
２　会場：釧路フィッシャーマンズワーフＭＯＯ　２階　教育委員会室
３　出席者
　　岡部義孝教育長
（教育委員）
　　山口隆委員、小出美貴子委員、籾山彩子委員、大山稔彦委員
（事務局）
　　齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、森学校教育部次長、大島総務課長、西崎施設計画主幹、外崎青少年育成センター所長、神谷給食担当主幹、及川北陽高校事務長、村木北陽高校校長、澤口生涯学習部次長、乙黒スポーツ課長、松本博物館長、平野ふれあい主幹、北村阿寒生涯学習課長、長谷地音別生涯学習課長
４　議事録署名人　　山口委員　籾山委員
５　傍聴人数　　０人
６　提出案件
【公開案件】
　報告事項
　（１）釧路北陽高等学校の台湾見学旅行の実施状況について
　（２）シロテテナガザル「オン」の死亡について
　（３）長期休業日の見直しに関する検討について
　（４）学校の現状について

７　会議内容

【公開案件】報告事項

（１）釧路北陽高等学校の台湾見学旅行の実施状況について

（村木北陽高校校長）

報告事項１、釧路北陽高等学校の台湾見学旅行の実施状況について報告する。

１０月の定例教育委員会で報告したとおり、１１月１２日（日）から１６日（木）までの５日間の日程で、予定どおり台湾への見学旅行を実施した。参加人数については、２年次生徒１８２名、引率団１０名に加え、景文高級中学への訪問の際には、岡部教育長、齋藤学校教育部長、菅野総合政策部長にもご出席いただいた。また、同時期に観光プロモーションのため台湾を訪れていた蝦名市長、畑中議長ほか関係者の皆様にも、景文高級中学まで駆け付けていただいた。

今回の見学旅行の大きなイベントの一つである景文高級中学訪問では、到着時から熱烈な歓迎を受け、生徒は驚いていた。校内で行われた歓迎セレモニーでは、最初に本校の生徒代表から英語で挨拶を行った。その後、両校校長の挨拶、記念品交換を行い、本校からは友好の証としてタンチョウの額入り写真を贈呈し、お返しに景文高級中学の江校長から、日本語に訳すと「友情は永遠に」というメッセージが入った盾をいただいた。両校による歓迎パフォーマンスでは、景文生は楽器演奏、北陽生はキロロの「ベストフレンド」を台湾語と日本語を織り交ぜて歌い、その後、お互いに英語で地元や学校の紹介を行った。歓迎セレモニーの後は１０名程度の２０グループに分かれ､学校内の様々な場所に移って交流活動を行った。活動内容は、編み物やボードゲーム、イラストなどの身近な日本文化のほか、お菓子作り、ＴｉｋＴｏｋ動画制作、ダンス、オンラインゲーム、各種スポーツ、同校が学科を設置しているペットのケアなど、各分野９０分の交流を行った。初めは緊張した面持ちで不安そうであったが、最後には連絡先を交換したり、一緒に写真を撮ったりと、楽しく交流を深めることができた。

この度の台湾見学旅行は、コロナ禍で３年延期となり、４年がかりでようやく実現することができた。２回のオンライン交流を経て、生徒も先生もようやくお互いに顔を合わせることができ、一同安心することができた。本校の代表生徒からは､「言葉での交流は至らないところもあったけれども、心と心で繋がれたような気がした」との感想があり、両校の生徒たちが国境や言葉の壁を越え、高校生活の中で忘れられない国際交流、異文化理解の成果を得ることができた。

この度の訪問を機会に、未来に向かって両校の友好関係を深め、交流が一層深まることを期待している。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

（山口委員）
　ようやく実現した見学旅行ということであったが、今年度限りではなく、来年度以降も発展・充実させていき、北陽高校の大事な伝統として育てていく必要があると思う。見学旅行から帰ってきた生徒たちから、来年行く生徒たちへの引継ぎや説明については何か具体的な計画はあるのか。
（村木北陽高校校長）
　２月に２年生から１年生へ報告会を行う予定であり、それを受けて１年生が見学旅行の準備を始めるという流れとなる。
（山口委員）
　事前にオンラインで行った交流の場面を見させていただいたが、そのような活動も含めて来年度以降さらに充実していければと期待している。

【公開案件】報告事項
　（２）シロテテナガザル「オン」の死亡について

（平野ふれあい主幹）
　報告事項２、シロテテナガザル「オン」の死亡について報告する。
　「オン」は生年月日が不明であるが、推定６５才以上のオスである。１９５９（昭和３４）年３月１６日に井の頭自然文化園（東京都）で購入し、１９８８（昭和６３）年１０月に推定３０歳で当園へ来園した。令和５年度時点において、世界最高齢のシロテテナガザルであった。
　２０２１年より高脂血症から心不全と糖尿病を患い投薬治療をしていたが、今年に入ってから体力・筋力ともに低下が見られ、１０月３１日には自分で姿勢を保持できなくなり、２日夜に死亡を確認した。死因は、糖尿病の悪化によるくも膜下出血である。
　「オン」は１９８８年に来園した４年後の１９９２年からはメスの「ミク」とペアになり、２７年間仲良く過ごしていた。また、ミクが２０１９年に亡くなった後は、２０２０年から「マリア」（来園当時７才、現在１０才）とペアになった。いずれも繁殖には至らなかったものの、２頭の穏やかで優しい様子は来園者にとても人気があった。
　毎年、秋の「敬老の日」には「長生きしてね！オンちゃん」というイベントを開催し、来園者と一緒に世界一のご長寿をお祝いしていたため、今回亡くなってしまったことは非常に残念な思いであると共に、ここまで長生きしてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいである。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

（山口委員）
　人気のある動物で、病気が原因ではなく、老衰して亡くなったという話しを何頭か聞いているが、動物園の長い見通しの中で人気の動物がいなくなるという状況は避けなくてはなら

ない。突発的に病気で亡くなることはやむを得ないとしても、長寿の動物に関しては、今後の見通しなど具体的な計画があれば、お聞かせいただきたい。

（平野ふれあい主幹）

動物園の主な動物は、日本全国の動物園や水族館が加盟している日本動物園水族館協会で計画・管理されている。種別で調整して、園の希望を聞き、現在飼育している動物の年齢や血統を鑑みて個々の動物園に割り当てている。釧路市動物園としては高齢の動物が多いため、導入したい動物の検討や調整も行っているところであるが、適した個体が見つかるかどうかがポイントとなる。もし見つかった場合はそこから予算の話しになり、合致すれば導入することができる。今のところ具体的な計画はないが、減少傾向ではあるため、ペアリング可能なものは希望を出し、できる限り導入にできるに調整している。

（山口委員）

残っているテナガザルのマリアは繁殖可能な年齢なのか。

（平野ふれあい主幹）

９歳から繁殖可能であるため、１０歳のマリアも可能であるが、適したオスがいない状態である。

（籾山委員）

子育て世代の私も周りの家庭も動物園を楽しみに利用させていただいている。動物園の訃報が続いているが、子ども同士が動物園の動物が亡くなって寂しい、なぜ亡くなってしまったのかということを話題にして考えている場面を見聞きした。動物園が命に触れ、感じて成長する場だということを改めて感じた。

【公開案件】報告事項

（３）長期休業日の見直しに関する検討について

（森学校教育部次長）

報告事項３、長期休業日の見直しに関する検討について報告する。

経過としては、本年夏の猛暑を踏まえ、小中学校の夏期休業の延長について、議会や関連団体から議論が上がり、釧路市教育委員会では学校管理規則で規定している、総日数５０日の中での夏季休業の延長について検討を開始した。その後、北海道教育委員会では、令和５年１１月２２日に道立学校における夏季休業日を、従来よりも長く設定可能になるなどの柔軟な学校運営を行うため、総日数をこれまでの５０日から５６日以内に規則改正を行った。

釧路市教育委員会では道の規則改正を踏まえ、釧路市学校管理規則の長期休業日に関する規定についての検討を行うため、１１月２２日及び２４日の二日間で各小中学校長、義務教育学校長から、長期休業の延長に関する意見や懸案事項の聞き取りを実施した。その結果、休業日が現行の５０日を超えた場合は、授業時数の確保や修学旅行など年間行事への影響等の課題が見えてきたところであり、今後、さらに、校長会の意見聴取や道内他都市、管内町村の情報収集、釧路市ＰＴＡ連合会の意見交換を行うことを予定している。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

（岡部教育長）
　現在も引き続き検討しているという状況を報告させていただいた。最終的な結論を持っているわけではなく、先ほど説明していただいた課題があることを整理した段階となる。
（山口委員）
　新聞報道で、道教委が５６日以内に改正すると報道を聞いたときに大丈夫なのかという懸念を持った。しかし、今の説明に個人的な懸念点も含まれていたため、慎重に各関係機関と連携を図りながら、進めていただければと思う。
（岡部教育長）
　懸念とはどのような点があげられるか。
（山口委員）
　学校現場にいた際、道教委や文科省からしっかりと授業時数を確保するようにと言われていたが、今回の道教委の場合、長期休業で６日間、つまり３０時間カットされるため、ほかの手立てを講じて確保していく必要があるということとなる。学校側も行事をギリギリまで削るなどして対応しているところであるが、そこからさらに削らなくてはならないのかというのが率直な感想である。学校行事のほか、会議や、子どもと教員が触れ合う時間などを削るのは、学校として厳しいところもあるのでないかと思う。
（大山委員）
　子どもたちの学習が成り立っているのかどうかが大切である。現場の子どもたちがどのような状況で授業を受けているのかというところを把握していただき、授業時数を確認しながら、授業が成立する環境を検討していただきたい。
（岡部教育長）
　１１月２２日、２４日に３９校全ての校長先生から話しを聞いた。状況としては、授業時数の確保という点が課題であり、道教委の規則改正は道立学校、主として高校が対象である。一方で市立の小中学校においては、中学３年生が受験等によって日数の問題が生じるため、授業時数をどのように確保していくのか、可能なのかという点を聞き取りさせていただいた。釧路管内の教育長とも話しをしており、他都市の状況も含めてなるべく早めに結論を出すべきと思っているが、今のところ確固たる答えは出ていない。どのタイミングになるかは約束できないが、引き続きこの問題は定例教育委員会の中でも議論させていただきたい。

【公開案件】報告事項
　（４）学校の現状について

（本川教育指導参事）
　報告事項４、学校の現状について報告する。

現在市内の小・中・義務教育学校ではインフルエンザが爆発的に流行し、ピークとなった１１月１３日以降の学校閉鎖が小学校２校、また学年閉鎖を含めて学級閉鎖が小学校５３学級、中学校２８学級となっており、児童生徒はもちろんのこと教職員の罹患も多く、各学校とも時数や進度確保、補欠授業を含めて、感染対策と学校運営に苦慮しているところである。

１１月は例年、公開研究会や指導主事訪問による校内研究会のピークの時期であり、今年も多くの学校で実施されている。特に市教委研究指定の幣舞中学校、鳥取西中学校の公開研究会では、両中学校の連携研究がなされたうえで、それぞれの小中ジョイントプロジェクトの校下小学校の先生方も多数参加し、授業研究を通した小中連携が活発になったと感じた。加えて、高等学校の校長や教員も授業参観はもとより、研究協議にも参加している姿が見られ、大変いい傾向だと捉えている。同様に公開研ではない指導主事訪問でも、小中の交流がほとんどの学校で実施されており、小中連携が少しずつ前に進んでいる実感を得ているところである。

今年度残る公開研究会は、先日、開校１２０周年記念式典を終えた音別小学校のみとなったが、１２月１日の公開研究会には音別中学校の先生方も全員参加し、義務教育学校化に向けた授業レベルでの連携を一層加速させると期待している。

暑さ対策については、専決処分の内容を信頼に記載の範囲で校長会にも説明をしたところである。

１２月８日には釧路市標準学力検査を実施する。今年度も小学校３年生から中学校２年生に国語と算数・数学の２教科を実施するほか、昨年度に引き続き小学校６年生、中学校１・２年生で「生活行動・学習活動調査」も実施する。結果については１月下旬に判明する予定であり、その結果を受けて、今年度残り２か月で取り組むことを整理し、確実に実施したいと考えている。

そのほか基本的なことであるが、様々な事案発生時の校内での情報共有や市教委への報告について迅速な対応を各学校にお願いした。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

（山口委員）

これから義務教育学校が６校立ち上がるが、義務教育学校にならない小中学校は、小中ジョイントを中心とした小中連携をさらに進めていかなければ遅れをとる状況になることも考えられる。公開研、授業の交流など、私たちが期待した以上に、現場の校長先生を中心に小中連携が前に進んでいる実感をできているため、今後さらに期待したい。

（大山委員）

釧路市指定の公開研究会と自主公開研究会を両方見させていただいたが、市指定の公開研究会は本当に一生懸命やっていただいていると感じているが、問題は自主公開研究会の方である。去年も事務局の立場で話しをさせていただいたが、自主公開研究会を何のためにするのかということをもう一度校長先生方に話していただきたい。退職の年のため自主公開研究

会を行っているというレベルであり、やることが先生方や子どものためになっているのかが気になるため、やるのであれば、授業改善が進んでいる姿を見せてもらいたいというのが、私たちの考え方である。そのことを校長先生方に、次の校長会等でお話しいただければと思う。

（本川教育指導参事）

自主公開研究会が３校の小学校で行われたが、開催の意図が明確であった学校、やや足りなかった学校があると捉えている。また、自主公開研究会ではないが、大山委員から指摘を受けた授業改善という点であれば、指導主事訪問の中でかなり進んでいると感じられる学校が増えてきている。その中でも小中ジョイントプロジェクトの関係から校区の小中学校で、管理職以外にも授業改善の中心になっている研修担当者などが互いの学校を見に来る姿が見られた。自主公開研究会の目的や意義、日常の授業公開から交流する場面を一層学校に浸透させていきたい。

（岡部教育長）

公開研究会をすること自体が目的だと思わないでいただきたい。公開研究会はあくまで、授業力を高めていくための一つの手段であり、目的化してしまうと意義を見失うことにつながるため、そこも含めてご指導いただければと思う。

（小出委員）

いくつか公開研究会を見た際の感想で、どの授業でもクロームブックやタブレットを使って授業が行われており、特に小学校の授業で多く見られた。去年、一昨年と見せていただいた授業と比べて、今までで一番効果的な使い方をしていると感じた授業があった。先生方がすごく研究されて、授業改善に取り組んでいることを肌で感じることができた。参事が話していたように、名簿を見ると校区の中学校の先生が多く来ており、小中ジョイントがうまくいっていることを実感できた。小学校の子どもたちがたくさん発言し、みんなで作っていく授業を中学校の先生たちが持ち帰り、中学校でもそのような授業に取り組んでいただける期待も感じられた。

（本川教育指導参事）

効果的なクロームブックの使い方という点で、多くの学校では慣れるという意味で、最初の１、２年目は辞書代わりとしての使用や、調べる学習での使用が多かった。しかし、今回の効果的な使い方に関しては、思考ツールや発表ツールとして使い、今までよりも数段上の使い方ができる学校が多くなってきている。小中ジョイントの良さの一つに、互いの授業での姿を見ることがある。小学２年生がクロームブックを使いこなしている姿を見た中学校の先生が、中学校と同時期から使い始めていたことに驚き、中学生の活発な話し合いを見た小学校の先生が、中学生が授業中にここまで話すと思っていなかった、小学生時代はここまで活発に話し合う子どもたちではなかったと言っていた。授業改善の中で子どもの姿を見ることは、原点に返って改めて重要だと思った。効果的な端末の活用も含めて小中の交流を深めていきたい。